

令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果  
国立大学法人政策研究大学院大学

## 1 全体評価

政策研究大学院大学は、公共政策に関する研究と教育を通して、日本並びに世界における民主的な社会統治の普及・充実・強化に貢献することを目的に、世界的にも卓越した研究・教育を実現することを目指している。第3期中期目標期間においては、国際的スタンダードに適合した研究・教育システムの革新、環境・条件の確保を図りつつ、政策研究の学問的確立を先導し、政策提言を行うための基盤整備を行うとともに、政策指導者や真のエリートの養成、開かれた政策構想の交流の場（ポリシー・コミュニティ）の形成等の機能強化を図ることを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、社会人にアクセスしやすい教育プログラムを提供するとともに、学内公募のリサーチ・プロジェクトにおいてSDGs特別枠を設け、SDGs関連の研究を推進するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

### （「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和2年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- SDGsの達成に向け、国際開発・国際協力の分野において指導的役割を果たす人材を養成することを目的に、大学院修士課程公共政策プログラム内に国際協力コースを開設し、令和2年度より学生を受け入れている。同コースでは、公共政策プログラム全体の必修科目・選択必修科目に加え、コース指定科目として、英語で行われる国際開発関係の5つの専門科目の履修を義務付けている。（ユニット「学位プログラムの再編・強化」に関する取組）
- 大学運営局全体の英語能力水準を向上させるため、プロフェッショナル・コミュニケーションセンター（CPC）において、テーマ別の1回完結型の授業（全13回）を実施しており、開催時間も通常の勤務時間帯に設け、育児短時間勤務中の職員等の参加も促している。令和2年度は延べ45名が参加し、大学運営局全体の英語能力水準の向上を図っている。（ユニット「ファカルティの国際化と外国人教員の大学運営への参画」に関する取組）

## 2 項目別評価

<評価結果の概況>	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

## I. 業務運営・財務内容等の状況

## (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

## 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載21事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## (2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

## 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

## ○ 国際的な共同研究による外部資金比率（共同研究）の上昇

政策研究センターが学内公募で実施するリサーチ・プロジェクトや学術会議支援事業において、国際的な共同研究を推進しており、国際交流協定を締結しているオーストラリア国立大学との共同研究の実施等により、共同研究収入は約607万円（対前年度比約519万円増）となり、外部資金比率（共同研究）が0.2%に上昇している。

**(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標**

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

**(4) その他業務運営に関する重要目標**

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載8事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、令和元年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されているほか、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

## Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

### ○ 社会人にアクセスしやすい教育プログラムの提供

大学院修士課程に夜間・土曜日に講義を行う2年制の新規プログラム「国際的指導力育成プログラム」及び「科学技術イノベーション政策プログラム」を開設し、「国際関係・外交シミュレーション」や「科学技術イノベーション政策立案演習」等の実践的な授業科目を提供するとともに、社会人向けの履修証明プログラムとして科学技術イノベーション政策・経営人材養成短期プログラムの開設や行政官向けのデータサイエンス科目の提供等、社会人にとってアクセスしやすい教育プログラムを提供している。